寄稿

APEC「女性と経済サミット」に参加して

㈱ディプロム　社長　貴島 清美氏（大阪）

九月十三～十六日、アメリカ・サンフランシスコでAPEC「女性と経済サミット（WES）」が開かれ、日本として民間から参加した七名のうちの一名として、中同協から㈱ディプロム社長の貴島清美さん（大阪同友会会員）を代表派遣しました。貴島さんからの寄稿を紹介します。（十月十五号既報）

APEC WESの概要

本サミットは①資本へのアクセス、②市場へのアクセス、③能力や技能形成、④女性のリーダーシップの向上をテーマに、基調講演、全体会議、分科会、女性と経済パートナーシップ会合、ハイレベル政策対話会合が開催されました。

経済成長のために女性の経済活動への参画強化についてどのように取り組むかを議論し、本サミットの「宣言」を行いました。宣言には「女性の可能性を最大限に引き出すための具体的な行動を取り、女性の才能を活用し、経済成長に向けて女性の貢献の最大化をめざす」などが書かれています。

女性と経済サミットの全体会議

クリントン国務長官基調講演

米国のクリントン国務長官は基調講演で、女性の参画は進んでいるが、指導的な役割についている女性はまだ少ないという課題をあげました。

その原因として資本や市場への障害がまだ多くあり、これらが取り除かれたときに、女性の潜在的能力が発揮され、経済発展につながるだろうと強調しました。女性は強く、たくましいのできっとできると力づよい発言でした。

講演するクリントン長官

また、本サミットでの宣言にもとづき、着実な取組を進めるという強い意思を表明しました。

同友会でどのように生かしていくのか

今年は、中同協も分科会を担当した昨年のAPEC女性リーダーズネットワーク会合（以下WLN）と違いました。

これまでの草の根的活動を、アメリカ国務長官ヒラリー・クリントン氏の強い主導によりトップダウン方式に変換され、産・官トップのコミットを推進力とし、女性の社会進出と貢献が、経済社会全体を押し上げることを強調しました。

各国が次回までにどのようなことをしていくのかが今回の課題です。

昨年のWLNに参加した際にも、感じたことですが、問題点や議論をいくら繰り返しても、具体的実行にいたらなければ、何も変わりませんし、政府も関わった、勉強会や助成金などの補助、専門家による仕組みづくりの支援などと絡ませていかないと難しいと感じました。

貴島清美さん(右)

女性人材の活用は企業の戦略として

日本においては、少子高齢化に伴う人口減少があり、女性人材の活用は中小企業にとって重要な課題となります。ワークライフバランスと同じく、中小企業の現状を考えれば実行していくための、ハードルはたくさんありますが、社会的な要請への対応という形で受動的に取り組むのではいつまでたっても実行できないと思います。

自社の競争力強化と成長のためには、人材の育成や活用が重要であるという認識にもとづいて、積極的に女性人材の活用に取り組むことが、持続可能な社会となります。

女性人材の活用においては、従来からの不平等の是正、機会均等の実現という面だけでなく、企業の戦略として、多様化する顧客ニーズや市場に対応するために、多様な個性や特性を持つ人材を育て、さまざまなライフスタイルや労働観を持つ労働者を雇用する体制が必要だと思います。

女性の労働力率のM字型カーブにみられるように、出産、育児期の就業は負担が大きく、継続就業は困難です。そういった面においても、パートタイマー、在宅勤務といった多様な勤務形態を構築する必要があります。

仕事と家庭の両立が図られ、スキルと経験を持った人材が長期的に働くことは企業にとってもメリットが大きいし、女性が働きやすい職場環境の整備、両立支援の取り組みは社員の満足度を高め、会社全体の活性化につながります。中小企業はその柔軟性を活かし、女性人材の活用を通じて、企業価値を高めていく必要があります。

女性の可能性を最大限に引き出すこと

同友会は学びの場や、産官学の連携など、さまざまな協力体制があります。小さな会社一社ではできないことも全国で組織化すれば可能だと思います。

今後は、国際感覚をもった経営に変革していくことが必要で、女性の能力を積極的に活用し、可能性を最大限に引き出していくことこそが日本の企業発展と社会全体を変えていく大きな力であると感じました。

沖縄 1000名を回復、過去最高の会勢に

沖縄同友会では二〇〇七年の「沖縄全研」開催時に達成した一千名を四年ぶりに突破し回復、過去最高の会勢となりました。

十月四日には、「創立二十四周年記念・一千社突破の集い」が沖縄産業支援センターにて開催され、新会員を含め八十六名が参加しました。

九月を「仲間づくり躍進月間」と位置付け、組織委員会をはじめ各支部の支部長・組織委員を軸に仲間づくりをすすめてきました。八重山支部を除く全支部が当日までの目標を達成し、過去最高の会勢一千十一名を達成しました。

糸数久美子代表理事より、一千名突破の達成を祝うとともに、組織としてその数の維持の難しさを語り、「継続して仲間づくりをすすめましょう」と閉会のあいさつがありました。

記念講演では、沖縄コンベンションビューローの安里繁信会長が「これからの沖縄と観光～一千社同友会に期待する～」と題して講演されました。

安里氏は、「観光を基軸に沖縄を成長させていきたい」と持論を展開。沖縄の観光と基地の問題を考えるきっかけとなったのは二〇〇一年にアメリカで起こった九・一一世界同時テロ。「沖縄は観光で生きていく」と再認識し、「観光〝業界〟としてではなく、〝産業〟として沖縄全体で関わり、進化しなければ」と強調しました。また、新生コンベンションビューローへの協力と観光産業振興に「同友会一千社の底力を見せて欲しい」と結びました。

引き続き行なわれた懇親会では、小渡玲代表理事・仲間づくり推進本部長の開会のあいさつのあと、仲地組織委員長より一千名突破の報告とこの間の奮闘ぶりが語られ、達成できたことに感謝の言葉がありました。

乾杯のあいさつ・発声にたった石川元章相談役は、「一千名達成は会社でいえば、売上を達成したこと。経常利益は、会員が同友会で学び会社の経常利益をあげること」と述べました。

その後、各支部からの報告と新会員のあいさつがあり、和やかに交流しました。最後に喜納朝勝副代表理事から「年度目標の千五十社達成に向けて引き続き頑張りましょう」のあいさつで閉会しました。

人工雷でシイタケ増産
菌床・原木とも新しい刺激方法で30～40%増産
浸水式栽培法で実績増加中
「無料」お試し期間４０日
同友会新聞で知ったと言って頂ければ、無料で貸し出します
（郵送料を含む事務手数料として 10,500 円はご負担願います）
『雷の落ちた所に、きのこがよく生える』
昔からの言い伝えを現実のものにした。
岩手大学での長年の実験成果を弊社の応用技術で小型化に成功
《第73回 かわさき起業家オーディションで優秀賞受賞》
株式会社グリーンテクノ（神奈川同友会会員）
〒213-0023 神奈川県川崎市高津区子母口 438
TEL 044-755-2431 FAX 044-755-0045
担当 蜂谷 e-mail:yhachitani@greentechno.co.jp
お問い合わせは「きのこ増産」で検索、
弊社HPより御入り下さい。
URL：http://www.greentechno.co.jp